

Matthew Hideaki Gardiner Oogawa

Artist and Researcher

マシュー・ガーディーナー

メディアアートの世界的研究拠点として知られる
アルスエレクトロニカ・フューチャラボ所属。
日本の折り紙技術とロボティクスを融合させた
ORIBOTCSの研究開発者。ついで、
作品はTokyo Midtown DESIGN TOUCH展をはじめ、
世界中のメディアアート展において展示公開されている。

Ph.D Artist and Key Researcher

小川 秀明

メディアアートの世界的研究拠点として知られる
アルスエレクトロニカ・フューチャラボ所属。
Creative Catalystとして新しいメディアや
「7/7」エンジニアリング技術の開発を実践し、
博覧堂など日本のクリエイティブ産業との
コラボレーションも積極的に行っている。

ORI*

CODE FOR MATTER

折ること
programmable,
transformable,
and sense-able

2016/3/9 [WED]-3/11 [FRI]
E2-401, D-lab デジタルファブリケーションルーム

WORKSHOP LEADER

マシュー・ガーディーナー + 小川 秀明
Matthew Gardiner + Hideaki Ogawa

OPEN CRIT

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館
2016/3/15 [TUE] 13:00-14:00

[申込み]
デザイン・建築学系
准教授
池側 隆之
ikegawa@kit.ac.jp

私たちは言語コードを駆使しながらこの世界に生きています。
その一方で、過去から繋がる文化的コンテキストの中で、
言語以外の規範・code、も活用し多様な社会的営為を実践しています。
本ワークショップは、日常の中に存在する
「折ること=FOLDING」に関するリサーチを通じて、
それをcodeと捉えて改めて社会を読み解くことからスタートします。
その経験を下敷きとして、プロトタイピングの段階では
デジタルファブリケーションを活用して、
実際にprogrammableでtransformableな新しい
「折ること=FOLDING」の機能を探索します。
そしてワークショップの最後には「折ること=FOLDING」が担う
sense-ableな(外界を感知可能にする)役割についての討議を行いながら、
未来のオーガニック・ユーザ・インターフェースの視覚化を試みます。
ワークショップ終了後にはその成果を、
京都工芸繊維大学 美術工芸資料館において、
「折ること」に関連する収蔵品と共に展示し、
過去から未来に繋がるcodeを考える場を構成します。

ORI*

CODE FOR MATTER:

research & development

京都工芸繊維大学 美術工芸資料館
Tuesday 15 - Monday 28 March 2016

EXHIBITION [企画展]

FOLDING CODE FOR MATTER II

折ることから読み解かれ、
組み替えられる世界
マシュー・ガーディーナー Matthew Gardiner
2016年3月9日 水 10時-12時
3月15日 火 15時-17時
小川 秀明 Hideaki Ogawa
アルスエレクトロニカの今

PUBLIC LECTURE [公開講演]

会場 京都工芸繊維大学 ノートルダム館 K-101

KYOTO Design lab x ARS ELECTRONICA FUTURELAB

ORI* CODE FOR MATTER

WORKSHOP | PUBLIC LECTURE | EXHIBITION
Matthew Gardiner + Hideaki Ogawa / ARS ELECTRONICA FUTURELAB

XX KYOTO Design Lab